埋文よこはま25

▶瀬戸神社旧境内地内遺跡の発掘
▶石製模造品のはなし

瀬戸神社旧境内地内遺跡の発掘

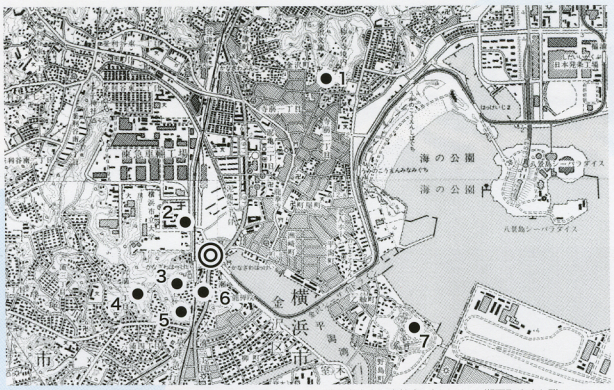
—海辺の祭祀・庭園遺構など—

瀬戸神社旧境内地内遺跡は横浜市金沢区瀬戸に所在し、源頼朝が勧請したと伝えられる瀬戸神社の西隣に位置します。この付近は中世都市鎌倉の外港として栄えた六浦の中心地で、瀬戸神社は港を見守る位置にあったようです。この遺跡では昭和62年の調査で、古墳時代の貝塚と祭祀場跡、中世の「やぐら」と土壙墓からなる墓地、近世の屋敷跡と庭園遺構などが検出されました。また、大変珍しいことに縄文時代～中世に至る時代の旧海岸線（波蝕台）の跡が見つかり、約6000年前の縄文海進時から徐々に海が後退していく様子を明瞭に確認することができました。

→次頁へつづく

◆「六浦」の歴史的環境

横浜市の南東部に位置する金沢周辺は、もともとは海と陸が入り組んでとくに「六浦（むつうら）」と呼ばれ、近世には景勝地として賑わいました。沖には伊藤博文らが大日本帝国憲法を起草した夏島が浮かび、野島と瀬ヶ崎の半島に抱えられた平潟湾（ひらかたわん）は天然の良港の条件を備えていたのです。鎌倉に幕府が開かれて以来、六浦の地は鎌倉の外港として栄え、著名な金沢文庫を擁する称名寺も金沢北条氏（かねさわほうじょうし）によって造営されました。また、付近には夏島貝塚・野島貝塚・称名寺貝塚・青ヶ台貝塚など縄文時代の漁労活動を今に伝える遺跡が多くあり、古来より豊かな海の幸に恵まれていたことがわかります。



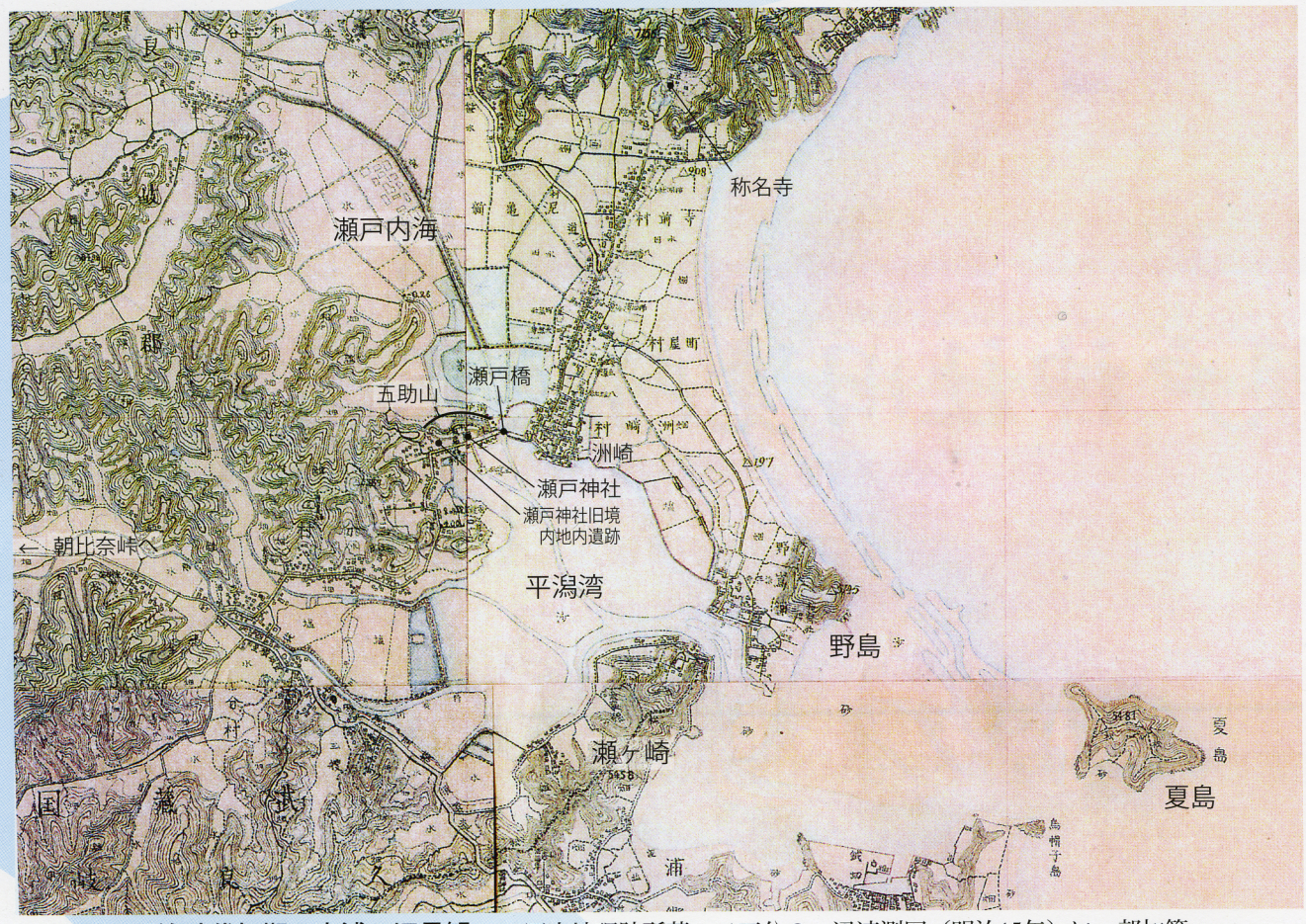
◎ 瀬戸神社旧境内地内遺跡　1 称名寺貝塚　2 横浜市立金沢高校内貝塚　3 瀬戸町やぐら群
4 金沢区No.52（上行寺裏）遺跡　5 上行寺東やぐら群遺跡　6 泥牛庵脇やぐら群　7 野島貝塚

現在の金沢八景周辺と主な遺跡

◆「瀬戸」の地名と瀬戸神社

「瀬戸」とは「狭い水門（みなと）」が語源と言われ、「五助山（ごすけやま）」と旧洲崎村地区によってくびれた地域にもこの「瀬戸」という地名がつきました。ここは、中世には海が入り込んでいた北側の「瀬戸内海（せとのうちうみ）」と南の平潟湾との境界に位置し、鎌倉時代以来「瀬戸橋」がかけられています。中世の六浦の港はこの付近にあったとみられ、瀬戸神社は港を見守る位置に建てられていたと考えられます。瀬戸神社の境内では波によって岩盤が削られた「波蝕台（はしょくだい）」を今もみることができます。

瀬戸神社の社殿と境内に残る波蝕台



明治時代初期の六浦の旧景観　　国土地理院所蔵　二万分の一迅速測図（明治15年）に一部加筆

◆瀬戸神社旧境内地内遺跡の発掘調査成果

昭和62年、瀬戸神社西側の敷地について、横浜市都市計画局（現在の都市整備局）による金沢八景駅東口地区土地区画整理事業にともなって、発掘調査が行われました。その結果、①瀬戸神社神主屋敷に関わる遺構群と庭園遺構（右写真）、②やぐら６基と数基の土壙からなる中世墓地、③古墳時代中期の貝塚と祭祀遺構（表紙）、④縄文時代～中世に至る時代の旧海岸線（表紙）、などの遺構群がみつかり、貴重な成果を挙げました。

近世神主屋敷遺構群と庭園遺構

近世の陶磁器類

中世墓地から出土した石塔類

近世神主屋敷の遺構群は、厚さ80～100cmの土丹を固めた整地層の上にあり、掘立柱の建物や、桶をはめ込んだ土坑などが検出され、陶磁器類が出土しました。桶をはめた土坑は厨房施設に伴うものと思われ、瀬戸神社の神主やその他の神職が住んだ神主屋敷の台所と考えられています。また、庭園遺構はやぐらの構築された出島遺構を半月状に池が取り囲み、出島からはやぐらの一つに石段が取り付けられて登れるようになっていました。このような庭園形式は鎌倉の瑞泉寺に見られ、それを模したものと考えられています。

17世紀前半代に整地された土丹の層を除いて下層に掘り進むと、中世の土壙墓が見つかりました。土壙墓からは人骨の他、かわらけ・古銭などがみつかっています。また、付近からは五輪塔などの石造物が倒壊した状態で出土しました。おそらく、近世初期の整地の際に破壊されたものと見られます。

なお、平成23年の京急線沿いの調査では、神仏分離令で廃寺となった円通寺のものと思われる参道がみつかっています。

平成23年の調査

左は古い京急線の石垣。中央は旧円通寺のものと思われる参道を調査しているところ。

◆波打際の祭祀

発掘調査で見つかった波蝕台は縄文時代前期のもっとも海進が進んだころから、中世に至る時期のものとみられています。その旧海岸遺構に覆いかぶさるように古墳時代中期のものと思われる貝塚がみつかりました（表紙）。カキを主体とし、ハマグリ、アサリ、シオフキ、マテガイなど様々な貝が含まれていました。また、貝層中から土師器や玉類、石製模造品が出土し、海辺で祭祀を行っていたことがわかっています。瀬戸神社はもともと瀬戸明神と呼ばれ、頼朝が伊豆の三島明神を勧請したものと伝えられていますが、その起源は意外に古く遡るのかもしれません。いずれにせよ当遺跡は横浜市における代表的な海辺の遺跡と言えるでしょう。

古墳時代の石製模造品・玉類

せきせい　も　ぞうひん

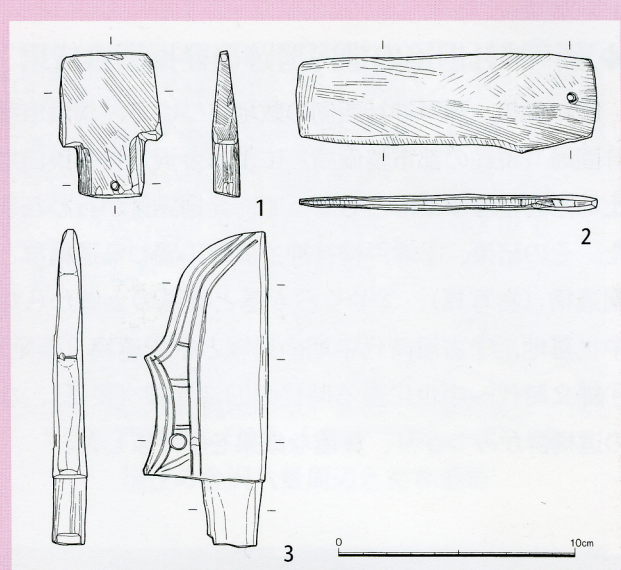
石製模造品のはなし

石製模造品とは古墳時代に盛んに作られた祭祀の道具です。「滑石（かっせき）」という比較的やわらかい石材を素材とすることが多く、粗割（あらわ）り・研磨して製作されています。

古墳時代の前期後半（４世紀後半ごろ）にそれまで副葬品として墓に納められた実用の器物を石製品に移し替えて模造したのが始まりで、４～５世紀の古墳からは主に農工具（刀（とう）子（す）・斧・ヤリガンナ・鑿（のみ）・鎌など）を模したものが多量に出土しています。一方、古墳時代中期の５世紀半ばごろから、集落や祭祀遺跡でも多く出土するようになります。ところがこちらは勾玉・剣・有孔円板（ゆうこうえんばん）が多く、古墳出土のものと組成が違い、このことをもって古墳の葬送祭祀と集落の神マツリが分化していると解釈されたことがあります。ところが、その後、５世紀末～６世紀の古墳からは集落と同様に有孔円板や剣形の石製模造品が顕著に出土することが明らかになり、葬送祭祀と神マツリは大きく違わない内容だったということが主張されるようになりました（葬祭未分化）。

ところで、今号で紹介した瀬戸神社旧境内地内遺跡でも石製模造品が出土しています（右下図、前項写真）。図の左は勾玉を模したものですが通常の勾玉のように立体的な丸みは無く、扁平なつくりとなっています。右は有孔円板で、もともとは鏡を模したものだと言われています。市内では他に都筑区の矢崎山（やざきやま）遺跡（５～６世紀の集落跡）から石製模造品が出土しています。こちらでは勾玉形に加えて剣形や臼玉（うすだま）も出土しています。

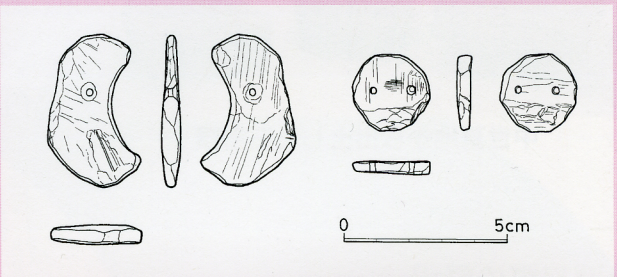
集落や祭祀遺跡の石製模造品は、このように鏡（有孔円板）・剣・玉という、いわゆる「三種の神器」と同じ構成を意識したものでした。石製模造品は一般集落からも出土するため、こうした祭祀が民衆にも広く浸透していたことを物語っています。



※世田谷区教育委員会　1999『野下大塚古墳』より転載

東京都世田谷区野下大塚古墳出土石製模造品
1. 手斧形　2. 鎌形　3. 刀子形

横浜市都筑区矢崎山遺跡出土の石製模造品など
上段・中段中ほど：勾玉形　中断左２点：剣形
下段左11点：臼玉　下段右２点：管玉　右：子持勾玉



瀬戸神社旧境内地内遺跡出土の石製模造品
1. 勾玉形　2. 有孔円板

「埋文よこはま」は横浜市域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

埋蔵文化財センターのご案内

ＪＲ根岸線「港南台」駅
２番バス乗り場より神奈中バス港36・86系統「上郷ネオポリス」行き、または港40系統「栄プール」行き、「上郷ネオポリス」下車徒歩１分

京浜急行「金沢八景」駅
国道沿い１番乗り場より神奈中バス金24・25系統「上郷ネオポリス」行き、終点「上郷ネオポリス」下車　徒歩１分

・見学等の施設利用は、平日の９～17時となっています（受付16時まで）。
・施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。

埋文よこはま25

発　行　日　2012年３月15日
編集・発行　公益財団法人　横浜市ふるさと歴史財団
埋蔵文化財センター
〒247-0024　横浜市栄区野七里２-３-１
TEL. 045-890-1155
FAX. 045-891-1551
ホームページ　http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/maibun/index.html